

第1回「あきる野・檜原地域公共交通活性化協議会」
第1回「奥多摩地域公共交通活性化協議会」
議事概要

1. 日時

令和5（2023）年2月13日（月曜日） 13時30分～15時00分（オンライン開催）

2. 議事

- (1) 法定計画策定に向けた手順について
- (2) 法定計画の構成案について
- (3) 西多摩地域の現状・課題について

まず、事務局より議事に係る資料について説明を行い、その後意見交換を行いました。
委員からの意見は以下のとおり。

■ 西多摩地域の現状・課題について

- 東京アドベンチャーライン（青梅線の青梅～奥多摩駅間）は3月のダイヤ改正でワンマン化し、青梅以東と分離運転をすることとなった。直通運行はなくなるが、都民のみならずインバウンドも呼び寄せるような観光に特化した線区にしたい。また、沿線全体をホテルに見立てる沿線活性化事業「沿線まるごとホテル」により、沿線の住民を巻き込みながら観光の側面から地域活性化に取り組んでいる。
五日市線についても色々なことを試すべく、沿線住民やバス・タクシー事業者と連携していきたい。
- 地域の課題の一つとして、運転免許返納が進んでいないことが上げられるのではないか。鉄道・バス・タクシーの有機的なつながりができると良い。
- 運転免許返納は公共交通の便が悪いところでは一般的に進みづらい。公共交通の利便性向上と運転免許返納をセットで考えられると良い。
- 地域住民の利用だけでなく、外部からの利用者をいかに取り込むかが路線維持に重要。特に行楽の時は増発便などを運行しているが、挙げられた課題に対して一つ一つ解決に向け、取り組んでいきたい。
- 移動手段間の連携が非常に大切。特に外部利用を公共交通に取り込んでいくためには、分かりやすく公共交通で目的地まで行けるといった情報を提供することが重要。各手段の連携を検討できれば良い。

- 市では、市内にまだある公共交通空白地域への対応のため、コミュニティバスの増発や、デマンド交通の実証実験等を行っている。本市としても、令和6年度に市内全域の地域公共交通計画の策定を目指しており、地域間幹線と共にあきる野市内の公共交通網をどうしていくかを考えていきたい。
- 町として移住促進に取り組んでいる。町内の人口減少は鈍化しているものの止まってはいない。J R・西東京バス・タクシー事業者とも連携し、観光客やインバウンド需要を取り込み、持続可能な地域づくりを進めたい。
- 村内の公共交通は、路線バスとデマンド交通が存在。路線バスは高齢者の日常生活を支える外出の足や、小中学生のスクールバスの機能も担っているため重要。路線維持には国や東京都の補助が不可欠。人口動態の変化に合わせて、村のデマンド交通も今後見直しを行いたい。

以上